

保存資料 一口メモ ①

## 岐阜市電の方向幕

白井 昭

戦前は各地の市電において終電は「赤電」、終前は「青電」と呼び、方向幕に赤、緑のガラスを入れて、印象的だった。

特に酒飲みは、青電が行ったから、「打上げよう」と、なじみは深かった。

名古屋の1800形は、ピンクのFL（フラッシュライト）で美しかったが、昭和30年代で止めてしまった。しかし、都電、東京のバスは平成まで走り、終の早いバス路線では夜8時頃に赤バスが走った。

獅子文六にも東京市電の赤電の話があり、歴史は古く、なじみは深かった。どなたか各地のその歴史を調べ、伝えてほしい。

岐阜の青電は、上の写真のごとく緑ではなく、方向幕に水色の無地の欄があり。行き先は分からなかった。柳ヶ瀬の酔客の多くは、この赤電で帰った。この方向幕は、名古屋レール・アーカイブスで保存されている。

戦前の街は盛り場でも暗く、僅かに交番、赤提灯、駅の紫、橙、名鉄急行の緑灯、名古屋市電の紫灯くらいで、それだけに目立ち、今も印象に残っている。



▲ 単車最後の日に「団体」の方向幕を掲げた17号

1967(昭和42)年7月22日(長良北町)



▲ 岐阜市電の方向幕